

歴史の散歩 (15)

郵便局

電話の普及に伴って手紙を書くことも少なくなっているようです。

町内には日吉・東陽・木戸の三つの郵便局があります。

この中でも古い東陽局は、大正二年四月一日の開局です。

現在ある局舎は昭和四十一年に新築したもので、それまでは宮川五、六二四番地にありました。

初代局長は、椎名幸之です。

郵便は国営事業ですが、全国津々浦々まで局舎を造る予算がありませんでしたので、その土地の有力者に造らせ局長に任命する方法がとられていました。

これによって全国的に郵便網を広げることができたのです。横芝局へ行かなければ用事の

足せなかった不便さから、明治四十五年七月東陽村では、電信施設の設置を請願していました。

この電信の扱いをするためにも郵便局が必要だったので。

東陽村は勿論、南条村や白浜村民の利用も多く、大正三年度の郵便物取扱量は、書留千二百七十、その他無料取扱郵便物二百九十三、小包五百四十四でした。

白浜村でも郵便局を必要とする気運が高まり、昭和七年一月十一日に木戸一、三三八番地へ木戸局が開局しました。

東陽局の例の如く初代局長となった渡辺質によって局舎が建てられています。昭和三十三年七月に、現局舎



明治十六年尾垂惣領局引受の手紙(古屋、越川操氏蔵)

に移転し、昭和四十一年の電報電話の統合により電話業務が廃止となっています。

電報配達業務は現在でも行われています。

日吉局は、昭和十四年四月六日に日吉村助役であった青柳保の力により開局しました。

当時は、香取郡に属していましたが、吉田郵便局の管轄下にありましたが、昭和三十八年横芝局の管轄となり、四十四年に局舎を新築して移転しました。

このようにしてみると旧村毎に一局ずつあるように思われませんが南条村にはなかったのでしょうか。実は南条村でも昭和十五年九月一日から三十三年三月末まであったのです。

南条簡易郵便局といって小田部一、〇二六番地の三の南条農協が取扱者となって行っていました。

そもそも郵便制度は、明治四年三月一日(旧暦)東京大坂間で開始されたのが始まりです。大正二年の東陽局開局まですべて横芝局に頼っていたのでしようか、『全国郵便局沿革録』

に明治十三年五月二十日開局した篠本、尾垂惣領という五等郵便局が記載されています。両局について詳しい記録は残されていませんが、十三年の県統計書によって開局した年の取扱量を知ることができます。

発信数は篠本局五〇八、尾垂惣領局六七六、来信数は篠本局

一、一三三、尾垂惣領局一、四五三でした。

来信に比べて発信が少ないのは、隣村や八日市場、多古、横芝くらいの所へは使いの者に届けさせたり、用事があって出かける人に頼むのが常だったこと、まだ郵便になじめなかったためでしょう。

明治十五年の郵便線路図によれば宮川村・芝崎村・富下村・傍示戸村は横芝局、虫生村・台村・小川台村・小田部村・母山村・谷中村・高野村は飯倉局、木戸村・目篠村・上原村・原方村は尾垂惣領局の管轄でした。郵便区の統廃合が進められて明治十八年六月廃止されています。(敬称略)

こんにちは

卓球協会

今回は、体育協会加盟の卓球協会へおじゃましました。

毎週金曜日の午後七時ともなると、この日を待ちかねたように体育館へ集まって来て和やかな雰囲気なかで卓球を楽しんでいました。リーダーの椎名さんは、こう話してくれました。

「常に練習に参加する会員

は、約二十名くらいでこのほかに会員はたくさんいるんですが」と、多くの会員の練習参加を希望しているようでした。

入会希望者は、お気軽に体育館までお出かけ下さい。

